

ありがとう いっしょん

石坂 喜久雄先生 ご勇退記念誌
～「いっしょん」と慕われた名将～



贈 長野県立長野吉田高校
バスケット部 教え子一同

長野吉田高校でのバスケット部の思い出

元顧問 石坂 喜久雄



この度、私の退職記念パーティーの開催にあたり妻まで招待していただきまして深く感謝しております。

思えば昭和55年度より横川先生から重荷のチームをバトンタッチされ大変悩み、指導に大学で学んだスリーメンのセオリーを新潟遠征で新潟の先輩と確認しながら教わり、私なりのチームを作り上げ県大会に臨みました。

主将 田中（隆）、山口、柳沢（剛）、故柳沢（一）、佐野を中心に松本県ヶ丘と決勝戦を戦い、田中主将のステップインで高得点を上げスーパースター中島を良く

抑え32年振りに優勝したことを昨日のことに思えます。

翌年の昭和56年度川崎総体では準々決勝まで勝ち進み、優勝校の能代工業高校に敗れましたが、ベスト8の栄冠に輝きました。主将のフォワード高橋（清）は得点王になり、センター山崎、柳沢（研）、神山、フォワード鈴木（昌）、ガード鈴木（満）（現 小松）とバランスのとれた3年生でした。遠征も新潟、名古屋と繰り返し強化に努めたことが成果に繋がったと思います。

翌年のチームは私が県選抜の監督になり、なかなか思うように練習に参加できず地区大会で苦汁を飲まされました。主将金沢、現県協会事務局長丸山等がおりましたがセンター陣が負傷してしまい勝利をものにすることができませんでした。

昭和58年度は劇的な逆転で安城インターハイに出場。主将伊藤、桑原、大塚（現松沢）、センター中沢、2年石井、塚田、野口、吉沢を絡め選抜大会出場の県ヶ丘をロースコアで破り決勝に進出、決勝は地区大会でも敗れた長身揃いの須坂東高校、前半16点差を伊藤、桑原の外角シュートで逆転、3点差で勝つことができました。

昭和59年度はインターハイ経験者も沢山いましたが残念にも県大会3位でインターハイ出場はなりませんでしたが、でも、大学東西対抗の前座試合に丸山丈和先輩（東京農大：当時学生連盟委員長）のご尽力で関東高校と対戦し、僅少差で破り良い経験をさせて頂きました。主将塚田、石井、田中（幸）、野口、高橋（隆）、吉沢で北信越大会に3位で出場しました。

昭和59年度の入学生には長身の村田、篠原、中村、新井等が入部し充実してきました。

昭和59年度の新人大会は私の身体が不調になり、絶対優勝の声もありましたが決勝で僅少差ながら篠ノ井高校に敗れてしまいました。主将北原、吉川、西沢、重藤、宮原、高橋等で厳しい練習でしたが良く頑張ったと思います。

この大会を最後に本校を15年が経過したため須坂高校に転出致しました。昭和60年には小沼達が入学し、更に充実し2年連続新人、総体と優勝し強い長野吉田高校を築いたと思います。

須坂高校に転出して2年目、昭和61年度の新人戦では長野吉田高校と決勝戦を戦うようになり残念にも敗れましたが、打倒長野吉田に燃えました。平成2年度の高校総体の県大会、念願の決勝で長野吉田高校を破り仙台インターハイに出場することができました。

昭和45年に赴任して野球部監督で4年間、昭和49年よりコーチとしてバスケットボールに携わることになり、いろいろな生徒と接することができました。現在県バスケットボール協会の理事長の任務に携わっておりますが理事で財務清水、技術広田、事務局長丸山と教え子たちに支えてもらいながらやっております。

また、今年度平成14年度のウィンターカップ（選抜大会）では、私が偶然にも解説をお願いされ放映されました。決勝でインターハイ出場の松商と対戦し接戦の末破り全国大会に出場することになり、解説者としても大変嬉しいことでもありました。

益々後輩達が頑張ってくれることを卒業生と共に期待したいと思います。

夢が見られたあの頃

石坂 節子（妻）

吉田高校時代は三十代から四十代とまだ若く、バスケット部の皆さんと一緒に夢を追いかけてがんばっていた事を思い出します。

私は子供も小さく、休みが盆、暮れもなく大変でしたが、一緒に夢がみられた事は楽しい思い出です。

皆さんが、いつまでも忘れずに会を開いて下さるとの事、教師冥利につきますね。

私も嬉しく思います。

一生懸命がんばってきて、よかったね。

石坂 喜久雄先生 栄光の足跡

年 期	バスケット部門	栄光の戦歴	新人戦	県総体	全国
49	28	第19回県高校総体 第三位（上田高校に敗退）		三位	
50	29	第20回県高校総体 第四位 （決勝リーグの末、松本県ヶ丘、伊那北に敗退）		四位	
51	30	第25回高校新人大会 準優勝（松本県ヶ丘に敗退）	準優勝	三位	
52	31	第21回県高校総体 第三位 第22回県高校総体 準優勝（東海大三に敗退） 全国高校総体（松江） 1回戦 吉田高校 79-94 天羽高（千葉）		準優勝	1回戦
52	32	第27回高校新人大会 準優勝（東海大三に敗退）	準優勝	準優勝	2回戦
53	33	第23回県高校総体 準優勝（東海大三に敗退） 全国高校総体（山形） 1回戦 吉田高校 91-51 広島学院高（広島） 2回戦 吉田高校 74-90 岐阜農林高（岐阜）			
53	33	第28回高校新人大会 準優勝（松本県ヶ丘に敗退）	準優勝		
54	34	第29回高校新人大会 準優勝（松本県ヶ丘に敗退）	準優勝		
55	35	第25回県高校総体 初優勝 （松本県ヶ丘を65-58で破る） ※高校選手権では第3回依頼21年振りV 全国高校総体（徳島） 1回戦 吉田高校 71-72 太田高（群馬）		初優勝	1回戦
55	35	第30回高校新人大会 初優勝 （東海第三を70-57で破る）	初優勝	優勝	ベスト8
56	36	第26回県高校総体 優勝 2連覇 （松本県ヶ丘を76-40で破る） 全国高校総体（川崎） 1回戦 吉田高校 86-66 東海大四（北海道） 2回戦 吉田高校 82-67 法政二高（神奈川） 3回戦 吉田高校 98-89 川内高（鹿児島） 準々決勝 吉田高校 61-119 能代工業（秋田）			
57	36	上位進出ならず無念			
58	37	第28回県高校総体 優勝 3度目V （須坂東高校を70-67で破る） 全国高校総体（安城市） 1回戦 吉田高校 60-71 膳所高（滋賀）		優勝	1回戦
58	38	第33回高校新人大会 第三位（上田高校に敗退）	三位	三位	
59	39	第29回県高校総体 第三位（上田高校に敗退）			
59	39	第34回高校新人大会 準優勝（篠ノ井高に敗退）	準優勝		
~	40	※新人戦を最後に須坂高校へ赴任			

通算49年～54年（6年間）	通算55年～59年（5年間）
<ul style="list-style-type: none"> 新人戦 準優勝 4回 県総体 準優勝 2回 三位 2回 四位 1回 北信越出場 5回 インターハイ出場 2回（最高位 2回戦進出） 	<ul style="list-style-type: none"> 新人戦 優勝 1回 準優勝 1回 三位 1回 県総体 優勝 3回 三位 1回 北信越出場 4回 インターハイ出場 3回（最高位 ベスト8）

昭和50年3月卒 28期生
伊藤 幸広

私が中学3年生の時、吉田高校野球部が甲子園をかけて決勝戦をやっているラジオ放送を聞いていました。すぐ近くの高校だったので応援をしていました。先制点をあげましたが、惜しくも負けてしまい準優勝に終わったのです。

吉田高校に入学して、バスケット部に入部した私は、毎日のように練習前に、野球のユニフォーム姿で体育館に来ては、先輩を捕まえてフリースローの競争をしていく野球部監督の先生がいてびっくりしました。その監督が石坂先生でした。

その頃はバスケットがうまいし、好きな先生だなあと感じていました。その後、バスケット専門の先生だと知り、どうりでうまいわけだと思ったものです。

そして3年生になり、野球部監督だった石坂先生が、バスケット部の顧問になったのです。しかしバスケット部には、横川大（背は大きくないが）監督がいたのでアシスタントコーチとして、いろいろ助言や指導をいただきました。

それから私も大学に行き、教育実習で吉田高校へ来た昭和55年、横川先生が屋代高校に転任され、石坂先生が一人でバスケット部を見られるようになったインターハイ県予選、今まで長野県の高校バスケット界を制してきた、王者松本県ヶ丘高校との決勝戦で、見事（高校総体で）初優勝を飾ったのです。新潟遠征に出かけ、新しいバスケット、強いバスケットを学び、ステップインシュートで勝ち取った優勝だったかな。

昭和56年、個性豊かな3年生6人を擁したチームは、インターハイ県予選の決勝戦をダブルスコア近い大差で危なげなく勝ち、高校総体2連覇を成し遂げました。川崎での全国大会でも、常連の地元強豪チームを下し、あれよあれよとベスト8まで行ってしまいました。すぐ負けて帰る予定が勝ち進み宿泊代が足りなくなったとか？OB諸氏は、大フィーバーしたひと夏でした。

翌昭和57年、私は非常勤講師として吉田高校に来て、石坂先生の下でバスケット部も見ようになりました。チームは背が小さく、センター陣はケガ人が多く大変でした。県大会出場をかけたの北信大会で惜敗してしまいましたが、この時のメンバーは体力だけなら絶対負けない練習をやってきました。体力は一番だったと思います。残念でした。

2年目の昭和58年、去年の汚名返上に燃えるチームは、個性が豊かな生徒が多く、いろいろな問題もありましたが、インターハイ県予選の準決勝で、全国選抜大会に出場した県ヶ丘に辛勝し、逆転は今まで一度も勝ったことがない須坂東とやり、負けそうになったところから、奇跡的に逆転勝利したときの石坂先生の（シュートに）「イケ！！」という声は今でも忘れられません。今まで沢山の試合を見てきましたが、あんなに奇跡的な、興奮した試合は初めてでした。

石坂先生とは恩師として一年間、バスケットを通して四年間と関わらせていただき、野球部監督であわや甲子園に行きそうになったり、奇跡的にチームを優勝させたり、選手の心をつかみ（耳もつかんでいたかな）、ぐいぐいと自分のほうに引き寄せ、引きずりこんでしまう手腕は手品を見る思いでした。

横川先生からバトンを受けて、わずか5年間で新人戦、優勝一回、準優勝一回、三位一回、県総体では、優勝三回、三位一回、インターハイはベスト8一回と、これらの輝かしい戦歴は石坂先生の妻さを物語っています。人は、“石坂マジック”と呼んだぐらいです。

ご勇退されても、県協会の理事長としてご苦労様です。これからもお身体に気を付けて頑張ってください。

石坂先生と私

昭和51年3月卒 29期生
荒木 博明

はじめに

原稿依頼人から石坂先生の思い出を綴るようにとのことでありましたが、どうしても自分の人生があって、そこに関わっていただいた石坂先生を思い起こす都合上、自分の生き様紹介の記述が多くなってしまいました。この文才の無さを恥じるとともに、お詫び申し上げます。

小学校のころ

私は長野市^{まゆみだ}檀田に生まれ育ち、幼い頃の買い物という吉田の商店街へ出かけたもので、その際に長野吉田高校の裏道をよく通ったものである。小学校6年生頃のことと記憶していますが、ある日、友達と吉田高校の体育館へ侵入し遊んでいると、体育研究室（現在でいう旧体育館の器具庫になっているであろうか、我々が現役の頃はクラブ員の更衣室として使用した）から石坂先生（野球のユニフォーム姿）が出てこられた。そのときは「やべー、叱られる」と思ったが遊んでいる我々の姿を笑顔でやり過ごしてくれたのであった。これが、石坂先生との出会いである。というより先生を初めてお見かけしたのである。その後、こんなにもお世話になろうとは当然ながら思ってもみなかった。

余 談

中学3年生の時だったと思うが、長野吉田高校で県の高校総体が開催され、ギャラリーから松本県ヶ丘高校対屋代高校の白熱した決勝戦を観戦した。松本県ヶ丘高校には、現在大商学園（大阪府）監督の山岡先生（旧姓：内藤、日本体育大学の主将を務めた）がいて、屋代高校には石田さん（東京経済大学主将を務めた。娘さんは佐久長聖高校で活躍）がいて一進一退の最高のゲームであった。当時、私は長野

北部中学校でバスケットボール部に所属し、高校へ進学してもバスケットを続けたいと考えていたので、その時、真剣に松本県ヶ丘高校への進学を考えた。しかし初めて学区制なるものの存在を知った。

高校時代

バスケットボールを続けたかったこと、自宅から近かったこと、学力がそれ相応であったことから長野吉田高校へ進学した。そこで出会った指導者は横川先生であった。私が一年生の時のバスケット部は県高校総体で2位であったが、当時は2位までがインターハイ出場権を得ることができたので、先輩達は三重インターハイへ出場した。という言い方をするのは、当時の3年生と私を含めて数人の1年生との折り合いが悪く、我々は一時期クラブを止めていた時期があったからである。

3年生が引退し、伊藤キャプテンの新チームスタートと共に指導体制が変わり、横川先生と石坂先生のお二人が顧問として就任されチームの指導をしていただくことになった。

練習メニューは走る内容が多く、特にリバウンドからのファーストブレイクが記憶に残っている。その時は、必ず石坂先生がシュートを打ってくれたが、石坂先生のシュート時の軸足は右足（普通、右利きの人のシュート時、軸足は左足）であったのが不思議であった。

その後、私が伊藤キャプテンの後を受け継ぎキャプテンを務めたが、生来の生意気さを残してバスケットを続けていたため、練習試合の後に体育館に残されて、石坂先生や横川先生から仲間と共に説教を受けたことを覚えている。そのときの説教は怒られるというより、お寺の坊さんから受ける説教のようで、妙に腑に落ちたものである。

しかし、伊藤キャプテンの時代も、私の時代もインターハイへの夢は実現できなかった。

この屈辱が体育教師を目指すエネルギーとなった。是非、自分でチームを育ててインターハイへいけるようなチームをつくりたいと・・・

※石坂先生は私が所属した学年で6組の担任をされていたことも思い出す。

大学時代

その後、私は体育教師を目指して国土館大学体育学部へ進学した。石坂先生とは縁があり、4年生のときに教育実習生として母校にお世話になったときの、研究授業の指導教官としてお世話になった。研究授業の教材は「陸上競技・走り幅跳び」であった。とても奥が深く、石坂先生にご指導を受けながら、夜遅くまで教材研究を繰り返したことを思い出す。当時、吉田高校は県高校体育連盟の事務局を担当しており、特に石坂先生はお忙しい立場にあられたにも関わらず、とても熱心にご指導いただいた。そのせいか納得のいく研究授業ができ、その後、教職についても陸上の授業は自信を持って生徒の前に立つことができた。石坂先生に感謝・感謝である。

教員になって

教員に採用され、念願の体育教師として教壇に立つことができ、初任校は飯田高校であった。下伊那郡下の田舎高校であったが生徒達は成績優秀で、真面目に練習に取り組む生徒達だった。当然のごとく石坂先生にお願いをし、チームを母校へ連れて行った。お金が無いので、宿は我が実家であり、入浴は初の湯（おばちゃんと猿を思い出す）であった。弱いチームではあったが、1日中、石坂先生にお世話になり鍛えていただいた。弁当のおかずの持たせ方までご指導いただいた。というのは、フライ（油もののおかず）をもってきたために選手の一人が体調を崩したのである。その後、私は弁当持ちの練習試合等のときは、油ものは足が早い（すぐ悪くなる）から気をつけるようにと、必ず注意するようにしている。

その後、私は中野西高校へ異動した。その当時、石坂先生は吉田高校から須坂高校に異動されており、当然の様に「石坂参り」が始まった。それは、毎週のように、いや週に何回も通いつめた。（御百度を踏むように）さらには真剣に、生徒に定期券を持たせて毎日練習に通おうかと思ったくらいである。

石坂先生のもとには先生を慕って各地から強豪チームが来るので、大変助かった。須坂までの僅かな交通費で、県内・および県外の強豪チームとの手合わせができたのである。

石坂先生のビール好きは皆さんご承知のとおりであるが、先生と一緒に練習試合の昼食時に飲むビールは大変美味しく、ついつい飲みすぎて午後の試合開始時間に遅れることもあった。他の試合の審判をしているとき、チャージドタイムアウトの時間を見計らって、トイレへ駆け込むくらいにいただいってしまうこともあった。（オフレコを願う）

私が中野西高校に赴任している間は、特に石坂先生の存在なくしてチーム強化はできなかった。前述のように「石坂参り」を積み重ね、赴任して3年目の新人戦では屋代高校（横川先生監督）須坂高校（石坂先生監督）と両恩師に恩返しをすることができ、北信3位に入った。

指導経歴が長く立派な戦績を残されている両雄に勝った経験と自信は、選手とともに大きな励みとなり、来春はその上を狙うという意欲も高まり、選手は冬場の辛い練習にも耐えてくれた。それは昭和63年のことであった。

新しい年を迎えて、昭和天皇が崩御され、元号が平成となった。その4月、わたしは避けられない人事異動の発令で、学校現場を離れ社会教育主事（スポーツ主事）として山ノ内町教育委員会への異動を余儀なくされた。

私からバスケットボールを取ってしまったら何も残らないことは、本人が一番承知していた。そこで、この3年間は審判活動に専念しよう一念発起した。その後、長野西高校へ異動してからもバスケット部の指導とともに、審判活動を積極的に継続した。当然のごとく、長野西高校においても「石坂参り」を続けた。

平成10年度から長野県バスケットボール協会の理事長に石坂先生が就任されると同時に、石坂先生より長野県協会審判長を命ぜられた。さらにその年は、北信越バスケットボール協会の各県選出理事数の絡みで私のような若輩者が北信越ブロック審判長を務めるようになり、自分のチーム強化、審判活動、県協会のこと、北信

越・日本協会のこと等を石坂先生とともに考える機会を与えていただいた。当然の様に、週末の練習試合から県協会主催の大会、北信越及び全国の大会等と常に石坂先生と行動を共にし、先生のバスケット哲学をご指導いただいた。

練習試合の後、二人で中野市の「ぼんぼこの湯」へ入浴したり（石坂先生は車に入浴セットを積んでいる）、ウインターカップにおいては私は審判、石坂先生は全国評議員会への出席という具合に裸の姿からネクタイの姿までご一緒させていただいた。その都度、生徒への接し方の基本から組織の動かし方等に至るまで、石坂先生から学ばせていただいたことは、とてもこの紙面では言い尽くせないほど多く、私の人生の支えとなっている。

私は現在、長野県教育委員会事務局・体育スポーツ振興係の任務に就いており、バスケットに思う存分関わってられないが、任期が終えて高校現場へ戻った暁には、今までに石坂先生からご指導いただいたバスケット哲学・人生哲学に基づき再度生徒と共に汗を流したい。

最後に

それぞれの方が、石坂先生との思い出を大切に胸にしまっておくことと思います。そんな中、私の人生の中にある石坂先生を思い出させていただくことと、紙面に書き記す機会を与えていただいたことに感謝します。

本日（11月23日）は、時間の許す限り、皆さんと共に石坂先生を語りしたいと思います。

最後になりましたが、改めて石坂先生ご夫妻に心から敬意と感謝を申し上げますとともに、これからも末永く健康で、仲睦まじくお過ごしになられますことをご祈念申し上げます。

石坂先生へありがとうございました。

昭和52年3月卒 30期生
小松 彰

長い間、ご苦勞様でした。と、言ってもバスケットボールに少しでも関わっていた者にとっては、「教諭」の立場がなくなるというだけで、石坂先生は変わらず、という感じですが、

私が吉田高校でバスケットボールをした時は、横川先生と石坂先生の両先生に教えていただきました。普通の練習は、横川先生が中心に見てくれていましたが、顔を出してくれれば、フリースローやシュートなどを一緒にした記憶があります。また、遠征などにも付き添ってくれて、チームの面倒をみてくれていました。

その後、吉田クラブでプレーしているときにも声をかけてくれ、応援もしてくれました。高いトーンの声がプレーをしていてもよく聞こえ、口から泡が飛んできそうなくらいに声援を送ってくれていました。試合中にもずいぶん元気付けられたこ

とでした。

私も今、ミニバスケットに関わっていますが、これからもご指導をお願いしたいと思ったり、これから、新しい素敵なチームを作ってほしいとも思います。

つきましても、長い間、ご苦勞様でした。そして、今後もよろしくお願ひいたします。

石坂先生の思い出

昭和54年3月卒 32期生
佐々木 明

石坂先生、長きに渡る教員生活、ご苦勞様でした。

私がはじめて先生と出会ったのは、かれこれ三十年位前の事です。

私の家は吉田高校に近く、当時、野球少年だった私は、よく野球部の練習を毎日のように見に行っていました。

甲高い声を出しながらノックしている若い先生の一生懸命さに選手の皆も負けずに大きな声を出して練習をしていました。その頃の野球部はとても強く、その試合を見たくて県営球場へ行ったものです。

野球をやるなら、あんな先生に教わりたいとその頃は思っていました。

ところが中学校へ入り、野球をやろうと思っていたのですが、なんと野球部がなく「どうするべー」と思っていたところで、体育館を覗くとバスケット部の練習が目に入りました。

「スゲー！！」の一言でした。

その頃といえば、オニツカタイガー、ファブレの皮シューズ、アディダスのスーパースター e t c、そんな靴見たことがない、カッコイイ、履きたいの理由だけでバスケット部に入りました。

しかし、練習はとてもきつく、つらい毎日でした。そんな私ですが、三年生になり少しずつゲームに出してもらい、やっとバスケットの面白さがわかってきたのです。ですから、高校になっても続けたいと思い、家も近い事から吉田高校に入学しました。

入部してまず「たまげた！バカでかい奴がいる、S中のシューター、K中のセンター、各中学校で活躍していたスーパースターばかりだ」自分はどうと「んー！？」ともかく続けることが出来るかは不安でしたが、とにかく入部する事にしました。

そして、手続きと思ひ恐る恐る体育研究室に入りバスケット班の顧問に入部をお願いしました。その時いらしたのが石坂先生でした。

その時私は野球だけでなく、バスケットも教えていただんだと思いつつ、「この先生なら野球を教えていた時のように、きっとすばらしい指導をしてくれる」と期待していました。がしかし、練習と中学の時よりも更にも増して、大変厳しく、それはそれはつらい毎日でした。

そんな学生生活も二年生になり、最初のホームルームは何と石坂先生が私のクラスの副担任として現れました。今思うとそれが良かったのか悪かったのか…。というのも修学旅行でクラスの悪友が、少しばかりミスを犯し、旅行の後で普段からは想像もつかない位、恐い形相で私達を叱咤されました。あえて言うならばく愛のムチ>だったと思いますが、それはとても恐くて忘れられない思い出の一つです。

バスケットといえば、三年生になると山形インターハイにも出場することが出来、私にとってとても良い思い出となりました。

今ここに自分があるのは、三年間 石坂先生のもとでいろいろなことを教えて頂いたからだだと思います。バスケットを通じ、いつか恩返しをしたい、自分もいろいろな人達にバスケットの楽しさ、すばらしさ、感動や感激を伝えたいという意味で、現在ミニバスケットの指導、公認審判員として各ゲーム、大会の審判をしております。

そんな忙しい日々が続いておりますが、バスケットに縁し、それに携わっていくことが自分に出来る恩返しだと思っています。私も先生のように出来る限りバスケットとの関係を続けていきたいと思っています。

先生、様々なご指導、本当にありがとうございました。

教職を去られた後も第二の人生、お身体に気をつけて益々ご活躍されることをお祈りします。そして、まだどこかの体育館でお元気な姿でお会い出来る事を楽しみにしています。

石坂先生と一緒に戦った日々

昭和56年3月卒 34期生
山口 正樹

第25回長野県バスケットボール高校選手権大会決勝戦の終了を告げるブザーが鳴った瞬間、長野吉田高校ベンチと応援団席は、総立ちとなった。

ついに宿敵松本県が丘高校を破ったのだ。

場所は松本総合体育館、館内は恒例の大きな銀色のメガホンで『県陵ファイター』の声がうるさいほど鳴り響いている。松本県ヶ丘高校への大応援団である。

決勝戦の前には、故小林信夫さんや、現会長の小林和夫さんが「思い切ってやってこい！」と激をとばしていただいた。

ロッカールームでのミーティングが始まり、いつもより一段高い「キンー」とした声で石坂先生が口を開いた。

「いつもの、おまえたちの走るバスケットをやってこい！」

『中島には、セーフティーを除く全員でスクリーンアウトだ！』

松本県が丘には、当時中島君とって、シュート、リバウンド、個人技とスーパースター的な選手がいて、得点の多くは彼の活躍によるものでした。

私達が2年生になるときに横川先生が、屋代高校に転勤され石坂先生による本格的な指導にかかりました。

チビッコチームが勝つためには？

石坂先生はまず私達を新潟遠征につれていきました。ディフェンスのあたりの強さ、シュート力、ステップイン等、高い技術はもとよりバスケットボールに対する情熱、集中力、ひたむきさが私達にいかに足りなかったかを気づかせてくれました。

又、3年時は伊藤幸弘さんをはじめ、相馬達男さん、高池一昭さん、田中孝一さん方が教育実習で長野吉田高校にこられており、当時東京の大学でバリバリやっていた先輩と毎日ゲームをやって頂いたこともその後を大きくかえることとなりました。

特に石坂先生はゴールに向かうバスケットに拘りました。やはりその拘りが走るバスケットにつながっていったのだとおもいます。

決勝戦後半が始まりました。私達は石坂先生の指示どおり、当時としてはどのチームもやっていなかった3-1-1のマッチアップのゾーンプレスにでました。

県が丘もなかなか中島君にボールが廻らず、リズムも崩れてきました。石坂先生の「リバウンドー」、「速攻だー」、「膝を曲げろー」の声がこの大声援の中でもよく聞こえます。後で知ったのですが、先生は試合中一度もベンチに座らなかったようです。

ついに最後は65-58でタイムアップ。気づいたとき石坂先生は何度も胴上げで宙に舞っていました。

インターハイが何処で行われるのかも知らなかった勝利でした。

又、私達が第3回以来2年ぶりの優勝のことは翌日の新聞を見て解ったことです。

長い間の教員生活お疲れ様でした。又石坂先生に教えて頂いたバスケットボールは私達OBの誇りであり又、そういうものを後輩や、子供に教えていくことが石坂先生にこたえることだと思います。

石坂先生、本当にありがとうございました。

恩師 石坂先生 ご退職に寄せる思い出

昭和57年3月卒 35期生
高橋 清

石坂先生、長年にわたる教師生活ご苦労様でした。また、長野吉田高校時代はバスケットボール部でご指導を頂き有難うございました。今回、先生のご退職に際し記念誌を作成するにあたり、私の3年間の思い出を寄稿させていただきます。

私と先生の出会いは昭和54年の春、私が長野吉田高校に入学後、バスケットボール部に入部してからです。当時のバスケットボール部は県内でも有数の強豪校であり北信越大会はもとより全国大会へも出場するようなチームとは知らず、安易な

気持ちで入部したと思います。

当時は、横川先生が転勤され石坂先生がチームを指導されるようになりました。その年のインターハイ予選、3年生の先輩方を中心に同学年の鈴木（昌）、山崎がチームに貢献し、長野吉田高校初の県総体優勝の瞬間は今でも鮮明に覚えています。そして私にとって初めてのインターハイの切符を手にすることが出来ました。そのインターハイ（徳島）のメンバーに入れていただき、ほんの短い時間でしたが全国の大舞台を経験させてもらうことができ嬉しく思いました。（今思えば2年生で全国大会を経験させてもらったことが、私達の代のインターハイベスト8につながったと思います）

先輩達の代のインターハイも終わり、私達の代に切り替わり学年6人という少ないメンバーでしたが、個性派揃いでガード鈴木（満）以外は全員が180cm以上という大型チームで新人戦は優勝（決勝当日、大雪の為センター柳沢が遅刻、代わりに出場していた神山は活躍？しかし前半途中でまで東海大三にリードを許す）しましたが、最初の目標であった選抜大会には出場することができませんでした。

そして高校最後の年、無事に地区大会・県大会も優勝しインターハイ（川崎）では、ベスト4を賭けて高校バスケットボール界の王者、能代工業と対戦できたことは私のバスケットボール人生の中でもかけがえのない思い出となりました。（先生も大学の先輩であり名将・加藤廣志先生に試合前、挨拶にいかれた時の嬉しそうなお顔が今でも思い浮かびます）

インターハイも終わり、進路を決める時期が訪れ私の進路についても大変お世話頂きありがとうございました。（先生の大学の後輩となり、プレーヤーとしては花を咲かすことは出来ませんでした。が大学の主務という大役を無事こなせたことは、高校時代のキャプテンとしての経験が凄く生かすことが出来たと思います）

無事、大学も卒業し希望であった教職の道（残念ながら長野県ではありませんが）に進むことができ、現在高校でバスケットボール部を指導していますが、なかなか思うような成績が残せません。先生が長野吉田高校で残された実績がどれだけ凄いことなのか、同じ指導者という立場になり痛感いたしました。私ももっと熱意と愛情をもって先生の指導論を思い起こし努力したいと思います。

最後になりましたが、先生の教員生活は終わるかもしれませんがバスケットボール人生に終わりはありません。今後、長野県のバスケットボールの発展にご尽力されることだと思います。お身体にご留意され、何時の日かバスケットボールを着に美味しいお酒を飲める機械が持てれば・・・・・・と思います。

石坂先生との思い出

昭和57年3月卒 35期生
神山 真也

あのインターハイベスト8に残った夏からもう20年以上が経つとは思えない

くらい、いまでも鮮明に覚えている吉田高校でのクラブ活動。

僕の高校生活は、ほとんどがバスケットボール一色だったと言って良いあの時に、いつも熱心にご指導いただいたのが、石坂先生でした。

僕達の同期は6人とも個性が強く、互いに衝突したりすることもありましたが、いつも明るく大きな声で、そして厳しく見守ってくれる信頼できる石坂先生がいたからこそ、最後には一つにまとまり、大きな目標を達成できたのではないかと思います。

クラブでの日々の練習は、休日なしで毎日であり、思えばご家族と過ごす時間を沢山削りながら、僕達の指導に当たられたことへの感謝の気持ちは、自分で家族を持ち子供を持つ身になって改めて深く感じています。

そして、あの時代に培った経験と自信がその後の自分にとって大きな財産になったことは、今でも感じています。

石坂先生は定年を迎えられた後も、バスケットボール協会の理事長を務められるとのことですが、今後もお元気で活躍されることを心よりお祈り致します。

石坂先生の思い出

昭和57年3月卒 35期生
小松 満（旧姓鈴木）

石坂先生永い間、長野吉田高校バスケット部をご指導賜り誠に有り難うございました。

私は、昭和56年川崎インターハイでベスト8のメンバーとして、石坂先生には公私共に大変お世話になった一人です。是非、記念誌に思い出と御礼を書き添えたく、寄稿させて頂きました。

私は中学時代より、吉田高校バスケット部の強さに憧れ、受験しました。入学後さっそくバスケ部の門を叩いたのですが、そこには鍛え上げられた先輩各位、同期入学の中で全中出場を果たした山崎、鈴木昌、シュータの名を馳せた高橋など錚々たる顔ぶれの中で、身長150cm台の短身の身分も省みず、この名門に飛び込んだ事を誇りに思ったものです。

その時、初めて石坂先生と出会ったのですが、当時横川先生がメインでフォロー役に石坂先生という2名体制でのご指導でした。

昭和55年に石坂先生がコーチ、宮崎先生が監督の体制となり、先輩達が徳島インターハイをかけて県ヶ丘を破り、県総体初優勝を飾った時から、「さあ次の代では俺の出番」と誓いを新たに徳島から帰郷致しました。

私達、最終学年は6名だけでありましたが、私を除いた5名が全員180cm台の大型選手でした。そして新チームスタートから私に待っていたのは、この5名でのスタメン構想でした。私は練習時もコート脇で見学を余儀なくされました。

3週間程経ったある日、「このままでは俺は埋もれてしまう」と悲壮感と共に、石

坂先生に直訴。「どうして自分を使ってくれないのですか。背が低いからですか」。

先生は私の目をじっと見つめて、一言「よし！明日から出てみる」とチャンス頂きました。石坂先生は選手の気持ちを理解してくれるご指導者だと日頃から思っておりまして、その言葉は一生忘れえぬバスケ人生の命の恩人として胸に刻んでおります。

私はチャンスを頂いた石坂先生に報いるために、そして私の代わりにスタメン落ちした神山の分まで頑張った次第です。(シンヤ。練習の時の飛び蹴りスマン・・・) そんなある日私の両親が上田に転居したため私は学校前の下宿に入りました。下宿生活で気が緩んでしまい学校の遅刻など先生には何かとご心配をお掛けしてしまいました。そこで先生は遠征時に体調や寝坊を心配され、毎回の様にご自宅に前泊させて頂きました。

その節は奥様の手料理が久しぶりに食べる母の味であり心身共に奥様には助けて頂きました。有り難うございました。

そしてチームは3年6名を主体にそれぞれ順調に育ち、速攻・セットオフenseの両面を使えるチームとして完成。県内無敗、最終目標のインターハイベスト8まで上り詰めていました。

しかしそこには、普段の練習で「石坂先生が体育館に来ないとやる気が出ない。石坂先生が来ると燃えるんだよ」というメンバー全員の声がありました。

大変個性の強い私達世代を、燃え上がらせたのは先生の俊腕と人柄のなせる業であったと思います。その結果がインターハイベスト8でありました。

先生から頂いた素晴らしい思い出を胸に引退後は茅野市に居を構えましたが、何年かに一度茅野市で県総体が開催されました。家内と一緒に必ず観戦に出かけましたが、吉田高校後輩達の応援と一緒に須坂高校の石坂先生も応援しました。

ある年、須坂高校選手のチームシャツの背中に石坂先生の似顔絵が書いてあり、須坂高校でも生徒に慕われているのだなと嬉しくなったものです。

今年最後の県総体。寄しくも茅野市で開催されました。ご勇退される事を知っておりましたので全試合を見届けました。残念ながらベスト8で終わってしまったのですが須坂高校の選手に「ハートだよ。ハート！！」とあの甲高い声が響きわたり、当時吉田高校での先生の精神論「ハート」を思い起こすにつけ、最後までご指導は一貫していたと溢れ出そうになる涙を堪えて先生の雄姿を目に焼き付けました・・・

石坂先生本当に永い間お疲れ様でした。そして有り難うございました。

ご勇退されても私達教え子は何時までも教え子です。

また、いつの機会にか思い出を肴に酒を酌み交わしたく思っております。

追記：新潟遠征

インターハイ前に新潟1位 新潟商業(前回、前々回とインターハイベスト4の超強豪)新潟2位の北越商業(190cm台2名の大型チーム)、新潟3位の白山(廃校

に伴い3年生11名の短身チームでありながら、春の選抜出場と北信越総体優勝。この白山に春の選抜の信越代表決定戦と北信越総体あたり悔しい2連敗中。白山はインターハイ出場はならなかったものの、吉田の挑戦を受けて立つため引退せずに強化合宿に参加)そして長野代表の吉田高校での超豪華な強化合宿を新潟で実現。

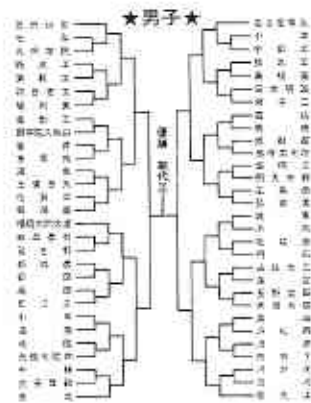
この全国区のチームと強化合宿を実現するにあたり石坂先生には人知れずご苦勞があったご推察致します。

この練習試合の結果 新潟商業には1点差と数点差の2連敗。しかし全国区相手に大健闘(川崎では外16入り)。北越商業には一勝一敗。そしてついに、天敵の北信越覇者白山に一勝一敗という勝利を収め、好成績で終了しました。

このインターハイ締めくり強化合宿を終えて石坂先生が私達に「君達は実力で全国ベスト16以上には間違いなく入っている自信を持って」という大変勇気付けられる御言葉を頂戴致しました。だからこそ、既に出発前から私達はベスト8という壮大な目標を持ってたと思っております。

第35期生(川崎インターハイベスト8)

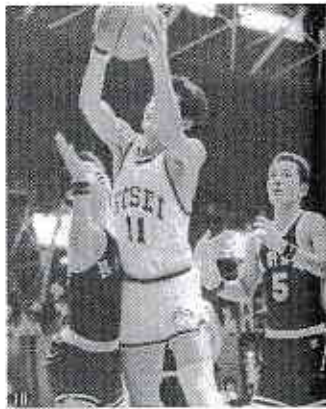
- No4 181cm 無敵のF 高橋 清 (全国得点王。高校北信越選抜)。日体大
・当時3P制度は無かったが清は全て射点から決めていた。恐るべしシューター。
- No5 183cm パワーF/C 山崎 康志 (中学・高校と全国出場。高校北信越選抜)
・攻撃の起点はF/Cを使いこなすヤスから全て始まった。
・格闘家の様なパワー。
- No6 182cm ナガカワF 鈴木 昌 (中学・高校・成年国体と3世代の全国出場)
・実質のエース。左右の両手、C/Fの両方。全てに卓越した技巧派。
- No7 158cm 短身G 旧姓鈴木 満 (得意業川のみ)
・短気を絵で書いたGでメンバーには迷惑を掛けたが、皆がストリクで決めてくれた。
- No8 184cm Mr6 M/C 神山 真也 (貴重な大型サブ秘密兵器。芝浦工大)
・本来ならM/Cを張れる実力であったが、Cの控えとして貢献。
- No9 188cm 不動のC 柳沢 研 (高校・成年国体と全国出場。同志社大)
・1年夏前に途中入部。実力が一番伸びた選手。堅実なストライクで大活躍。



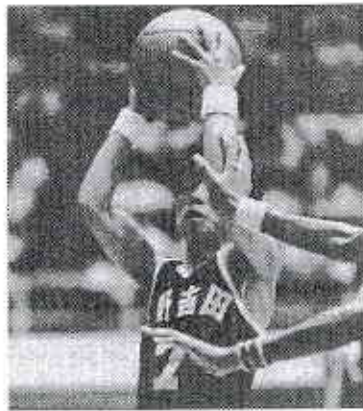
第3 4回川崎インターハイ トーナメント表



1回戦 対 東海大四



2回戦 対 法政大二



3回戦 対 川内



準々決勝 対 能代工業

3-HI KAWASAKI INTER-HIGH
HOOP SOUNDS



★ベスト8以上個人総合得点(男子)

順位	名前	所属	身長	学年	得点	AVG	試合数
1	高橋 浩	法政大	181	2	314	25.5	4
2	神谷 啓	東海大	182	2	303	21.0	4
3	中野 健	法政大	177	2	296	23.0	4
4	藤原 隆	法政大	181	2	286	22.9	4
5	松本 健	法政大	180	2	281	21.6	4
6	田中 浩	法政大	181	2	278	19.5	4
7	藤野 隆	法政大	180	2	271	17.6	4
8	野村 浩	法政大	182	2	271	18.3	4
9	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
10	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
11	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
12	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
13	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
14	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
15	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
16	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
17	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
18	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
19	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4
20	高橋 浩	法政大	181	2	268	15.2	4

★1試合個人得点順位(男子)

順位	名前	所属	身長	学年	得点	対戦相手
1	高橋 浩	法政大	181	2	186	対 東海大
2	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
3	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
4	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
5	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
6	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
7	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
8	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
9	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
10	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
11	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
12	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
13	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
14	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
15	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
16	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
17	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
18	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
19	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大
20	高橋 浩	法政大	181	2	181	対 法政大

★ベスト8以上個人総合得点(女子)

順位	名前	所属	身長	学年	得点	AVG	試合数
1	高橋 浩	法政大	161	2	303	30.3	4
2	高橋 浩	法政大	161	2	299	29.9	4
3	高橋 浩	法政大	161	2	296	29.6	4
4	高橋 浩	法政大	161	2	286	28.6	4
5	高橋 浩	法政大	161	2	281	28.1	4
6	高橋 浩	法政大	161	2	278	27.8	4
7	高橋 浩	法政大	161	2	271	27.1	4
8	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
9	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
10	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
11	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
12	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
13	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
14	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
15	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
16	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
17	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
18	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
19	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4
20	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8	4

★1試合個人得点順位(女子)

順位	名前	所属	身長	学年	得点	対戦相手
1	高橋 浩	法政大	161	2	277	対 東海大
2	高橋 浩	法政大	161	2	180	対 法政大
3	高橋 浩	法政大	161	2	177	対 法政大
4	高橋 浩	法政大	161	2	181	対 法政大
5	高橋 浩	法政大	161	2	181	対 法政大
6	高橋 浩	法政大	161	2	182	対 法政大
7	高橋 浩	法政大	161	2	172	対 法政大
8	高橋 浩	法政大	161	2	155	対 法政大
9	高橋 浩	法政大	161	2	162	対 法政大
10	高橋 浩	法政大	161	2	159	対 法政大
11	高橋 浩	法政大	161	2	162	対 法政大
12	高橋 浩	法政大	161	2	161	対 法政大
13	高橋 浩	法政大	161	2	165	対 法政大
14	高橋 浩	法政大	161	2	172	対 法政大
15	高橋 浩	法政大	161	2	165	対 法政大
16	高橋 浩	法政大	161	2	153	対 法政大
17	高橋 浩	法政大	161	2	159	対 法政大
18	高橋 浩	法政大	161	2	173	対 法政大
19	高橋 浩	法政大	161	2	235	対 法政大
20	高橋 浩	法政大	161	2	277	対 法政大
21	高橋 浩	法政大	161	2	259	対 法政大
22	高橋 浩	法政大	161	2	170	対 法政大
23	高橋 浩	法政大	161	2	161	対 法政大

★ベスト8得点AVG(男子)

順位	名前	所属	身長	学年	得点	AVG
1	高橋 浩	法政大	181	2	314	25.5
2	高橋 浩	法政大	182	2	303	21.0
3	高橋 浩	法政大	177	2	296	23.0
4	高橋 浩	法政大	181	2	286	22.9
5	高橋 浩	法政大	180	2	281	21.6
6	高橋 浩	法政大	181	2	278	19.5
7	高橋 浩	法政大	180	2	271	17.6
8	高橋 浩	法政大	182	2	271	18.3

★ベスト8得点AVG(女子)

順位	名前	所属	身長	学年	得点	AVG
1	高橋 浩	法政大	161	2	303	30.3
2	高橋 浩	法政大	161	2	299	29.9
3	高橋 浩	法政大	161	2	296	29.6
4	高橋 浩	法政大	161	2	286	28.6
5	高橋 浩	法政大	161	2	281	28.1
6	高橋 浩	法政大	161	2	278	27.8
7	高橋 浩	法政大	161	2	271	27.1
8	高橋 浩	法政大	161	2	268	26.8



月刊バスケットボール 1981 10 臨時増刊(日本文化出版)より

石坂先生のご退職祝いに寄せて

昭和58年3月卒 36期生
丸山 文和

石坂喜久雄先生、バスケットボールに賭けられた教員生活を全うされ、晴れて定年を迎えられましたことに、58年卒業組（大月君・岡本君・小口君・金沢君・小嶋君・清水君・関君・仁科君・野川君・宮坂君・宮原君・山野井君、そして伊澤さん・田中さん）を代表して心よりお祝い申し上げます。

私たちが入学した年には徳島インターハイ出場、2年の時は川崎インターハイ出場と、活躍される諸先輩方の下で「長野吉田」の四文字に誇りを感じ、同時にその重さを痛感しました。しかしながら我々の時代ではその責任を果たせず、後輩に委ねる結果となってしまいました。実績を残すことは出来ませんでした。石坂先生の高いお志と人間味あふれるご指導にふれた3年間を人生の糧として、それぞれの道で頑張っています。

私事になりますが、大学に進み学生連盟の委員長という日本のバスケットボール界の一端に関わらせていただく機会を得ました。分を越えて大役でしたが「長野吉田」と「石坂先生」という高名に支えられ、成し得ることができたことと回想しています。

今日は長野県の高校教員として、また未熟ながらバスケットボールの指導者として人生を歩んでいます。高校現場についたとき、改めて恵まれた環境とよき指導者とのご縁はいかに幸せであったかを感謝せずにはられません。

平成10年度から石坂先生が長野県バスケットボール協会の理事長を務められたことから、微力ながら事務局の任についています。長野県のバスケットボール界をさらに飛躍発展させるべくご尽力されている情熱に感服するばかりです。

これからも益々ご健勝でご活躍されますよう心よりお祈り申し上げます。

「ご迷惑をかけ続けたあの頃」

～石坂先生、僕達を見放さないで！～

昭和59年3月卒 37期生
伊藤 治彦

どの年代も、石坂先生には多かれ少なかれご心配・ご迷惑をおかけしたと思いますが、私たち昭和58年卒組ほど先生にご心配をおかけした年は無いかもしれません。

高校在学中、20才まで待てない私たちは、大人の真似をして「命の水」や「白い煙の出るもの」を摂取し、学校に行きたくても「お前たちは1週間来てはいけない」と言われてしまいました。

更には、人様の自転車をちょっとだけ拝借をした者もいて、石坂先生からは「もう、お前たちの面倒は見ない！」と半分見放されてしまいました。

私たちは心から深く反省をし、今までの生活を見直し、頭を丸め、そして石坂先生から再度あの熱いご指導を頂けるよう、真剣にバスケットボールに取り組みました。

県高校総体を1週間後に控えたある日、信濃毎日新聞に「男子バスケット、本命は松本県ケ丘か東海大三高。ダークホースに長野吉田」という記事が載りました。先生はそれを見て「1週間後にはダークホースが優勝したという記事が見たいな」と、あのいつもの甲高い声を珍しく押し殺し、一言私たちにつぶやきました。私たちはその一言を聞いて、「よし、先生のためにも絶対勝つてやる！」という闘志がメラメラと湧いてきました。

…そして、私たちは石坂先生のご期待に添え、真夏の名古屋駅で名物「きしめん」を口にすることができました。

昔からよく、「できの悪い子供ほどかわいい」といいますが、私たちも先生からこのように思っていただけだとしたら幸いです。

石坂先生からバスケットボールを通じて「人としての生き方」、「最後まで諦めないという粘り強さ」、そして「社会的ルールの遵守（特に20才未満の規則）」まで本当に幅広くご指導頂いた3年間は私の今までの人生の中で最も輝いていた「ひととき」でした。



勝ち越し 男子決勝 長野吉田 須坂南 後 半17分、伊藤(4)のミドルシュートが決まり、長野吉田が67-65とリード

男子決勝、長野吉田が須坂南を破り、7連覇を達成した。この試合は、長野吉田の主力選手、伊藤(4)が後半17分、ミドルシュートを決めて、長野吉田が67-65とリードした。この試合は、長野吉田の主力選手、伊藤(4)が後半17分、ミドルシュートを決めて、長野吉田が67-65とリードした。

7連覇 闘志むき出し 北信対決

男子決勝、長野吉田が須坂南を破り、7連覇を達成した。この試合は、長野吉田の主力選手、伊藤(4)が後半17分、ミドルシュートを決めて、長野吉田が67-65とリードした。

女子は蟻ヶ 崎3連覇

バスケットボール
女子は蟻ヶ崎3連覇
バスケットボール部は、女子が蟻ヶ崎高校を破り、3連覇を達成した。この試合は、蟻ヶ崎の主力選手、伊藤(4)が後半17分、ミドルシュートを決めて、蟻ヶ崎が67-65とリードした。

長野吉田 逆転で栄冠

バスケットボール部は、男子が須坂南高校を破り、7連覇を達成した。この試合は、須坂南の主力選手、伊藤(4)が後半17分、ミドルシュートを決めて、須坂南が67-65とリードした。

バスケットボール部は、女子が蟻ヶ崎高校を破り、3連覇を達成した。この試合は、蟻ヶ崎の主力選手、伊藤(4)が後半17分、ミドルシュートを決めて、蟻ヶ崎が67-65とリードした。

信濃毎日新聞より

石坂パワーをこれからも

昭和60年3月卒 38期生 塚田 剛

石坂先生、本当に長い間お疲れ様でした。ご勇退と聞き、たった3年間ではありましたが先生にお世話になったあの頃を懐かしく思い出し、私たちにとってその3年間でいかに大事な3年間であったかを実感しております。

高校を卒業して早18年が経ち、各々がいろいろな環境にありますが、あの時に培った精神力は今の生活にも大変役立っていると思っております。先生に怒鳴られ、殴られたのも懐かしい思い出です。今でも同期の仲間が集まり昔話をし、一部の者はまだまだ現役でバスケットボールを続けているようです。本当にいい仲間です。

現役時代に、とても辛いと思った練習や怒鳴られてばかりの練習試合の夢をいまでも時々見ることがあります。シュートが入らずにうなされ、寝覚めの悪いこともしばしば。特に最後のインターハイ予選で上田高校との県大会準決勝の試合、残り時間あとわずか、2点差で負けていて入れれば延長というゲームでゴール下のシュートははずしたことは今でも忘れることができません。その時に謝ることができなかったのもこの場を借りて、謝ります。みんなごめん。

私も家庭を持ち、子供を育てる環境にありますが、今になって本当に石坂先生をはじめ伊藤先生や諸先輩がいかに一生懸命私たちを指導なさっていたかを実感しております。家庭は大丈夫だったのかと心配にもなりますが、何年もあるパワーを維持されたのはすごいことだと感心しております。

これからは怒鳴る機会も減ってしまうと思いますが、いつまでも石坂パワーを持ち続けていてください。

先生のご健康と今後のご活躍を祈ります。

「汗と努力と我慢と結果」～精神論の原点～

昭和61年3月卒 39期生 北原 輝和

石坂先生、長い間本当にお疲れ様でした。思い起こせば20年前、「バスケがやりたい！」一心で、名門と言われた「長野吉田高校」を受験し、入学しました。中学で経験してきた練習など足元にも及ばない気合いの入った練習、厳しい指導、流れる汗など一つひとつ新鮮で且つ、未知の領域に足を踏み入れたような怖さがありました。

「汗をかいても水飲むな！」と、よく当時先生から指導？されましたし、確かに練習はキツく、サボりたい気持ちに苛まれることも多々ありましたが、それ以上に

「流した汗は無駄ではない」こと、「努力した分“力”（技術・感覚）が付く」ことを力説し、ご指導頂いた記憶があります。これは単に言葉だけでなく、練習を見守る真剣な眼差しと、決して妥協を許さない絶妙の“タイミング”と“瞬間”を捉え、自ら体を張って指導にあたる姿がありました。

大事な試合になればなるほど「ここは我慢だ！」の“激”が飛び、守り切る苦しさに耐える選手達には“我慢”を叫び、ベンチには、小康状態突破のチャンスを窺う鋭い視線をコートへ投げ掛ける先生の姿。そこには厳しい練習に耐えてきた選手を信じ、必ず結果を呼び込むことを確信している“指導者”を感じました。

私も社会人となり、20年経ってやっと意味が解かるようでは情けないのですが、上司・同僚・部下といった人間関係や仕事など、体力的な苦痛よりも精神的な苦痛を伴うことが多くなる中で、ポジティブにストレスに向かい合うための私の原点は、先生にご指導頂きました「精神論」です。

末筆になりましたが、先生の益々のご活躍を心からご祈念致します。

「ミスヲスルナ！」と共に

昭和61年3月卒 39期生
奥原 健（旧姓：高橋）

イッシャンが吉田を去って数ヶ月後、吉川と優秀な後輩達の活躍で私達第39期生6人は石川インターハイに出場することができた。

高校を卒業して、皆大学に行ったり（行こうとしたり）する中、私は就職して松本に配属され、そこで数年、先輩の野口さんや秀義さんと速攻+3点シュート主体のバスケットをした。

結婚して大学に留学し神奈川の小田原に住んでいた頃、小学生ミニバスケットのコーチを任せられ、子供達に浴びせた言葉は「ミスヲスルナ！」

長野に帰ってから長野オリンピックの頃まで、重藤、官原、西澤、北原と再会し、某銀行や某建設会社のバスケットチームに参加した。「みんな変わらないね。」

3人目の子供が保育園に入園して子育ても一段落し、かみさんと一緒に生涯スポーツと言われる4人制のソフトバレーを始めて1年が経つ。

ミスの多さで負けるのはバスケットと同じ。何処からか聞こえる「ミスヲスルナ！」

ミスもなくして大金星。ミスを乗り越え楽しい人生。

先生、皆様、「ミスヲスルナ！」で楽しい人生を。

石坂先生ご勇退に向けて一言

長年にわたっての教職員のお勤めお疲れ様でした。
まだまだバスケットボール界の為に、頑張ってください。

早川 尚希

在学中は大変お世話になりました。誠にありがとうございました。
どうぞいつまでもお元気で過ごして下さいますよう心からお祈り申し上げます。

高橋隆裕（母より）

今後のご活躍お祈り申し上げます。

佐々木 明

長い間お疲れ様でした。次の目標に向け、頑張ってください。結婚式のときは大変お忙しい中ありがとうございました。

竹内 健一

長い間ご苦労様でした。

羽方 主税

先生お疲れ様でした、そしてありがとうございました。
P.S. 当ホテルをご利用いただき誠にありがとうございます。

田中 幸一郎

長い間お疲れ様でした。これからはのんびり生活してください。

田中 幸一

もう山形にきて3年になりますが、まだいつ帰れるかわかりません…

神山 真也

現在は、バスケットから離れた生活をしていますが、社会人として企業に勤めるものとして、吉田高校時代バスケットボールから得たことが生きていると感じます。

小林 和幸

バスケットボールとは縁遠くなってしまいましたが、元気でやっています。

大月 顕

先生お久しぶりです。長い間教員生活ご苦労様でした。

私が若い頃の先生の顔をいまだに思い出すときがあります。

あの時は楽しかったと思います。先生 これからもおからだを大事にしてください。

田中 隆

長い間、本当にお疲れ様でした。

吉田 篤則

長い間、本当にお疲れ様でした。

私は、現在東京にて(株)熊谷組の財務部に所属しています。

当時の練習の厳しさに耐えたことは、今でもとても役立っています。

新井 誠

先生、長い間本当にご苦労様でした。

バスケー筋、先生のあのファイトあふれる声が懐かしく思い起こされます。

我が長男も、高校生となり、甲子園目指してがんばっています。

スポーツっていいですね、先生、お体に気をつけてご自愛くださいませ。

水倉 美千代(旧姓藤沢)

高野事務長共々待っていますので、吉田の事務室へもお寄りください。

皆様へ 吉田高校の同窓会事務のお手伝いをしています。又遊びにきてください。

西沢 順子(旧姓野口)

長い間お疲れ様でした。私は、結婚して東京におります。

6歳の息子が降りますが、残念ながらサッカーに夢中です。

大瀧 千寿美(旧姓伊澤)

高校2年の時、インターハイに連れて行ってもらったことがいい思い出に

なっています。今は結婚し、大阪に暮らしております、二人の男の子の母として

楽しく幸せに過ごしています。石坂先生におかれましてはいつまでもお元気で

生涯青春!!とばかり、ますますのご活躍をお祈りいたします。

松山 泰子(旧姓加藤)

長期にわたり、バスケットボールのコーチとしてご活躍されお疲れ様でした。

いつまでもお元気で、お体ご自愛ください。

私の方は現在、育休で2歳2ヶ月になる娘と日中のんびりした日々を送っています。

春には第2子出産予定です。

宮岡 晃子(旧姓田口)

幹事の皆様お疲れ様です。石坂先生お元気でしょうか?一番できの悪かった期のキャ

プテンです。今でもたまに石坂先生が夢に出てきて竹刀で自分をぶつんです。何

とかしてください。いつまでもお元気で...

金沢 誠

更北中で男バスの指導をしています。また教えていただきたいと思ひます。

石井 孝道

永い間お疲れ様でした。今でも練習していたのを思い出します。

お世話になりました。

宮沢 優

石坂先生、ご無沙汰しております。長い間お疲れ様でした。

酒井 貞利

ご無沙汰しております。今年、東部中学に入った息子は、武井先輩のもと、バスケ

ットに励んでいます。

吉田高校時代が懐かしく思い出されます。お元気で過ごしてください。

山下 亨

教え子一覧

第28回(昭和50年3月卒業)			
伊藤幸広	381-0043	長野市吉田1-7-13	026-241-5937
大沢喜代司			
久保勲	382-0091	須坂市立町1345	026-245-1185
小池秀雄	390-0303	松本市浅間温泉2-7-19	0263-46-4359
高木健司	424-0063	静岡県清水市能島311-17	0543-48-3965
轟照秋	174-0061	東京都板橋区大原町5-3ツグワ本蓮沼402	03-3969-7228
羽田行男			
山口正雄	198-0043	東京都青梅市千ヶ瀬町2-203-1	0428-21-1030
和田知明			

第29回(昭和51年3月卒業)			
荒木博明	381-0056	長野市浅川押田146-3 araki3@valley.ne.jp	026-263-1302 090-8773-5536
今井良信			
内山宏一			
徳竹由和			
水野三玲	389-0111	北佐久郡軽井沢町長倉2147-561	026-245-0794
宮浦力	381-2221	長野市川中島町御厨1893-2	026-284-4605
持田博生			
山下亨	380-0803	長野市三輪10-5-27	026-259-8726
山本芳人	273-0042	千葉県船橋市前貝塚町422	0473-30-0486

第30回(昭和52年3月卒業)			
大前雅彦	270-1138	千葉県我孫子市下ヶ戸向口435-23	0471-84-3627
上沢宏一	381-2205	長野市青木島大塚54-4	026-286-3507
小松彰	382-0800	上高井郡高山村高井4456-4	026-242-3603
相馬達男	380-0841	長野市大門55	090-1214-1414
高池一昭	380-0911	長野市稲葉日詰沖1731-77-A-2 takaike@dia.janis.or.jp	026-222-0192 090-8683-8464
田中幸一	381-0023	長野市稲葉1699	026-222-0656 070-5360-8481
前田志行	390-0825	松本市並柳1-3-18-2	0263-27-6938
山岸憲一	389-1106	上水内郡豊野町石328	026-257-3752

第31回(昭和53年3月卒)			
赤塚和夫	380-0833	長野市権堂町2253	026-237-6967
小林俊一			
丸山明	389-1105	上水内郡豊野町豊野1265	026-257-4069
宮崎隆美	381-2247	長野市青木島1-32-16	026-283-1327

第32回(昭和54年卒業)			
荒井秀敏	381-0041	長野市徳間3223 トリコーポル402	026-244-8713
金児浩二	381-2214	長野市稲里町中氷館841-1	026-285-4716
佐々木明	381-2246	長野市丹波島3-753-8 akira.69.ikko@docomo.ne.jp	026-284-4041 090-4960-4438